

平成30年度 百合便り

校長だより 4月号

さて、平成30年度が始まりました。校長だよりは昨年度1月からお休みしていましたが、また、再開いたします。

この4月に新入生を迎え、総数1105名となりました。川崎地区では唯一の10クラス規模となります。百合丘高校への志願者がこんなにいることを誇りに思い、改めて、この学び舎で彼らをどう育てるのか、思いも新たになります。

今年度は始業式、入学式と同じ言葉を伝えました。それは百合丘高校が開校当初よりつなげている言葉「清新潑刺」を合言葉に、「百合高プライド」をもってほしいということです。「清新潑刺」は百合の白い花びらと、その花びらに合間見る赤い球芽からイメージし、生き生きと生きていく様を表している様子です。その言葉どおり、百合高生は明るく、潑刺と過ごしています。

しかし、校長着任2年目の今年、百合丘の伝統と誇りを伝えるべく、この言葉をより具体的な、高校生活の目標となる言葉にしようと考えました。学校は学習だけでなく「人づくり」の学び舎でもあるのですから。

そこで、「清新潑刺」を「百合高プライド」と名付け、

清く正しく行動し、 **新**たな自分へ挑戦する。

自ら考え、**潑**信し、社会のために**潑刺**と生き生き行動する。

と解釈し、百合丘高校生活の生き方として、制服と同じように皆で一つの言葉として伝えてほしいと話しました。

今年度から百合丘はまた、次へのステップを歩みだします。授業時の携帯電話指導や校内ピアス装着の禁止。生活の中で、規範を明確にし、「清く正しく行動してほしい。」

55分授業や行事、百生戦の復活に加え、「百合丘芸術祭」の準備を活用し、「新たな自分へ挑戦し、自ら考え、発信してほしい。」

そして百合丘の学び全てを「社会のために潑刺と生き生き行動する」手立てに生かしてほしい。

そんな思いを込めています。

百合の校章を胸に、百合丘高校の制服に身を包み、百合丘の学び舎で胸を張って、いのちを大切に、生き生きと生活してほしいと思います。そしてもう一つの伝統「挨拶」。声にし、伝えあうことを忘れず、人とつながり、「人の中で生きる力」を身に付け、それぞれの「清新潑刺」を作ってほしいとてほしいと伝えました。

さあ、平成30年度の百合丘高校にご期待ください。保護者の皆様と地域の皆様とともにわが百合丘高校生を見守り、育てていただくことをあらためてお願いし、平成30年度第1号の校長だよりといたします。本年度も宜しくお願い致します。